

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第669号 2025年11月9日

「巡礼」という出会いと恵みの場

主任司祭 ミカエル鈴木真

今年は、聖年の横浜教区指定巡礼地が唯一山手教会の聖堂ということで、実にたくさんの、さまざまな巡礼のグループをお迎えして、できる限りわたしから聖堂の説明をさせていただいています。

こちらは巡礼の方々を迎える立場ですが、さまざまな方々との出会いがあり、また、その中で新しい気付きなどもいただきました。そのひとつがチェコのステンドグラスです。現在の山手教会の聖堂がスワガーというチェコの人の設計によるものということで、チェコでは有名な『ヨハネ・ネポムク神父』という殉教者のステンドグラスが飾ってあるわけですが、この『ヨハネ・ネポムク』とは、その神父さんの名前だと思っていました。ところが「ネポムク」とは地名で、「ネポムクのヨハネ」でした。今では「ネポムク市」という場所があるそうで、なんと7月にその副市長さんという方が山手教会を訪問されました。そして、いろいろと話してくださいました。

わたしも、きっちりと調べてなかったのですが、ヨハネ神父の頭の周りに輪っかがあって、そこに5つの星が描かれています。ヨハネ神父が天に召された時、頭の周りで5つの星が輝いた…というのがネポムクでは有名な話で、ヨハネ神父の絵やご像のすべてにこの「5つの星」があるそうです。

いらした副市長さんも大変に喜ばれて、その後メールをいただきました。「温かいお迎えと教会へ

の訪問をさせていただき、誠にありがとうございます。地球の裏側まで旅をして、教会でわたしたちの最も有名な故郷の人物像を見ることができ、大変光栄に思います。今後とも御連絡を差し上げ、今後の御協力を心よりお待ちしております。」…なんとも幾重にも感動しました。聖年という時の、巡礼という行為を通して、さまざまな恵みをいただいていることに、今更のように気付かされました。

カトリックの「巡礼」とは、〈神とのつながりを求めて、日常を離れて宗教的由来の地に赴くこと〉なのだそうです。巡礼をする動機は人それぞれでしょうが、「巡礼」という行為を通して神さまがはたらかれていることを強く感じます。フランシスコ前教皇が言われた「希望の巡礼者」というテーマですが、「聖年」という時を祝うわたしたちのさまざまな行為の中に、確かに神さまがはたらかれて、出会いや気付き、そして、新たな発見などが与えられている…そのことに心を向けることが「希望」であるようにも感じました。

12月28日の聖年閉幕まで、もうしばらくこの恵みを多くの人と分かち合いたい、と思います。